

がんばろう 南三陸町 復興第39号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
志津川広報センター
企画・編集 千葉伸孝

防災対策庁舎「県有化」の動き(3月) ⑤

◎町から村井知事に職員遺族との意見交換要請 (24日)

佐藤町長は県有化について、庁舎で犠牲になった町職員の遺族との意見交換の場に、知事も来ていただきたいと要請した。

これとは別に「県有化」について町民からも意見を聞く場を、町は検討している事も明らかにした。

◎南三陸町議会は「県有化請願」を継続審査に (24日)

3月定例会で新年度予算を、総額 522 億 5 千万円に一般会計当初予算を原案通り可決した。

町民有志から出された「防災対策庁舎の県有化受け入れを求める請願書」について、特別委員会に付託し継続審査とした。閉会中の継続は次の定例会に(6月)に報告されるのが慣例だが、山内委員長は結論の時期は決めていないと述べた。

また、神割崎キャンプ場の指定管理者に南三陸町観光協会を指定する事を可決した。

◎4月9日村井知事と遺族の懇談会を町長が明らかに (27日)

臨時会の行政報告の中で、意見交換会を村井知事のほか佐藤町長も出席し、庁舎の早期解体を求める遺族側の意見を聞く。

◎町は来月に町民を対象として「パブリックコメント(意見公募)」を実施する(27日)

4月1日の町広報に意見用紙・封筒の配布や、ホームページでも受け付け、締め切りは14日とした。

佐藤町長は意見交換やパブリックコメントの内容を踏まえ、早い時期に最終的決断を県に回答する。議員からは「賛成」「反対」を問う住民投票やアンケートを求める意見もある。

南三陸町議会 震災対策特別委員会

防災対策庁舎の「県有化」受け入れを求める請願について

6月4日臨時議会

午後1時半からの特別委員会に、メディアのカメラ5台と新聞記者が10名余りに、傍聴者が15名を超えて傍聴席はいっぱいとなっていた。

山内孝樹委員長の開会の言葉で、パブリックコメントの説明が執行部よりあり、議事に入った。後藤委員の「県有化決定のような報道、町長は発言したのか」、次に高橋委員は「出したくても出せなかった人がいるのでは」、及川委員は「提出のパーセンテージは」の質問があった。4人目は三浦委員で「県有化が決まったかのような町と議会の報道に対して」の質問があり20分間の休憩に入った。

休憩後、ホームページの紙ベースの住民意見を配布、新聞社への抗議文が提出された。次に阿部委員が「パブリックコメントの開封には、第三者が立ち会った方が良かったのでは」と質問した。

その後委員長がこれで特別委員会を閉じますとの発言に、請願書の紹介議員の一人が、「閉会を承服できない」と発言があった。議員の数名は退出した。納得がいかないと議員が委員長に詰め寄る光景もあった。

6月15日臨時議会

議場には、全国でも話題になっている「防災対策庁舎県有化」への議会の行方を多くのメディア・新聞記者や町民の傍聴50名の中に職員遺族も加わり、議員全員の議論に聞き入った。

請願紹介議員は、後藤委員をはじめ、小野寺・佐藤正明・村岡の4人の各委員だった。初めに請願の紹介議員が一人ずつその理由を語った。「時間が経ちもう一度冷静に議論すべき」と同様の意見だった。14名(議長・委員長を除く)の委員がいて、議長に発言権はなく3人の委員が発言なく委員会の推移を見つめた。

反対討論では三浦委員が、「請願としていかなるものか」と、議会への請願の中身の不備を理由に意見を述べ、賛成討論では、後藤委員が請願紹介となり「議論を深める事と解体・保存だけではなく、後世に何を残すか議論を尽くすべき」と訴えをした。最後にタブーな言葉ながら前置きをし、「防災庁舎は遺族だけのものだけではない」と言い、「みんなで悩み続けましょう」「避けて通るべき問題ではない」と最後を締めた。

参考人の若い3人、及川氏(33)小野氏(36)仙台市佐藤氏(30)の発言は立派だった。政治に流される事ない意見に、議場は静寂に包まれた。

県有化受け入れ 賛成10 反対4

防災庁舎は請願の採択を賛成多数で可決した。請願者の「時間を掛けて町民で議論し考えるべき」として、「県有化の受け入れ」を求める請願の内容が、議員の起立による採決で10対4の賛成多数で採択された。

6月30日町長が「県有化」での保存決定へ 7月7日県有化受け入れを町長が知事に伝える

本吉郡の剣道剣士 歌中に集う

平成27年度 剣道級位審査会



日頃の練習による自分の力量を知る上で大切な審査会が、志津川・歌津・本吉地区の小中生35人が1級から7級までの級位に挑戦した。

実技審査では、1~3級が切り返し・互角稽古、4~6級が切り返し・打ち込み、7~8級が所作・素振り。木刀による基本抜稽古法の審査では1級が基本1~9、2級は基本1~6、3級は基本1~4までを行う。

結果は、全員が合格ながら、中学校1年生以上の1級受験にあたり、初段取得する技能としては、まだその所作・互角稽古の姿勢に達していないと、2級へ降格しての合格者もあった。審査の先生も今後開催される昇段審査の合格は厳しいとの英断を下した。

平成27年度本吉郡小学生剣道大会

6月21日 歌津中体育館

本吉郡内には現在歌津地区の道合剣道スポ少・雄飛剣道会があり、志津川地区には志津川剣道スポ少の3団体となった。会場は子ども達の元気な気合いが響き渡り、熱い戦いが繰り広げられた。

〈大会結果〉

○団体の部

優勝 道合剣道スポ少 第2位 雄飛剣道会A
第3位 志津川剣道スポ少

○個人の部

3年生以下の部 (男女混合)

- 第1位 三浦 旭 (雄飛) 第2位 三浦綾星 (雄飛) 4年生男子
- 第1位 島山興斗 (道合) 第2位 小野陽輝 (道合) 5年生男子
- 第1位 千葉知暉 (道合) 第2位 三浦誠矢 (志津川) 5年生女子
- 第1位 島山七海 (道合) 第2位 三浦愛可 (雄飛) 6年生男子
- 第1位 阿部修大 (雄飛) 第2位 伊藤亮介 (道合) 6年生女子
- 第1位 阿部 滯 (雄飛) ※個人戦上位2名県大会出場資格

大会の総評で、斉藤理事長は「技と技、気力と気力をぶつけた良い試合だった。昨日よりも今日、今日よりも明日と頑張ってください。」と述べた。

最知審判長は「一日一日の稽古を大切に、県大会に挑んでほしい」と参加した選手に向け話した。

〔志津川剣道スポ少大会記〕

志津川チームは志津川スポ少の2名と志中剣道教室の1名の1チーム3人で参加し、他団体の5名との対戦となった。参加チームは4団体で、1勝2敗で3位入賞を果たした。先鋒の安部が1本ずつ取り引き分け、中堅の安部が1本勝ちし、大将の三浦は2本勝をした(2名の不足分は不戦敗)。実質的3位決定戦は、雄飛Bとの大接戦に会場からは大きな声援が飛んだ。

個人では安部陽が3学年以下で3位入賞し、5年生の三浦誠矢が2位となった。本吉郡内の剣道スポ少の人数が減少にあり、是非「志津川スポ少」を見学に来て剣道の楽しさを知り、入団をお願いしたい。

志津川剣道スポ少



☎0220-23-2455

佐栄畳商工

(インテリアみやび)

- プチリホーム ●セット割引有
- 南三陸町プレミアム商品券使えます

町内掲示のチラシ、ポスターから

平成27年度志津川高校

同窓会総会

- ・日時 7月17日(金) 午後6時開催
- ・場所 南三陸プラザ・会費 3,000円

- 5月20日 総合体育館文化交流ホール 南三陸町体育協会総会
- 5月26日 南三陸プラザ 南三陸町観光協会総会
- 5月26日 ベイサイドアリーナ 志津川地区まちづくり協議会総会
- 6月2日 役場大会議室 南三陸町スポーツ少年団本部総会
- 6月26日 ポータルセンター 商工会「グループ補助金説明会」

プレミアム商品券使えます

千葉総合印刷(株)

商工団地内 TEL 0226-46-3069

未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成27年(2015年)
～地元報道より～

3月の出来事

◇台湾からのモニターツアーの一行が南三陸町の病院・ケアセンターの建設現場を見学した。台湾赤十字や教育関係機関からの金銭支援があり、台南市高級中学の校長をはじめとする13人が来町し、今後予定する「教育旅行」に向けた視察をした。

◆気仙沼市本吉町の福祉施設「春園会」では、気仙沼市ではじめての「定期巡回・随時対応型介護看護」のサービスを3月から始める。県内では7番目で、利用者からの連絡を受ければ24時間訪問する。

◆気仙沼・本吉の6つの高校から817人が卒業する。

◇東京日本橋に南三陸町の常設拠点施設「わたす日本橋」が3月3日オープンした。東京駅から歩いて10分の三井不動産本社3階に。南三陸町の食材や観光情報発信の場所として期待される。

◇JA南三陸では26年度の、ネギ生産状況をまとめた。数量約106トンで販売金額は2,060万円と、県内に12組合で前年の7位から4位に躍進した。今後は復旧農地での作付は来年度3.5倍を予定し、トップ3への期待が高まる。

◆本吉響高校の家庭クラブ考案の「響の海の弁当」が県内の360店舗のセブンイレブンで販売される。

◇南三陸町に自然環境活用センターが、松原公園跡地に28年度の完成を目指し計画されている。敷地面積3千㎡で10mのかさ上げし本造建設で、「教育旅行」など環境教育の拠点として期待される。

◆気仙沼・本吉の今季のアワビ水揚げは、震災後の放流ができず予定の4割にとどまった。

◇町の緊急雇用は、本年度の650人から65人と10分の1に縮小される。27年度が仮設生活見守りや町の臨時職員などは継続する。緊急雇用は県からの創設基金の16億3,600万円が充てられた。

◇3月定例議会で一般質問の「町民バス運行」については、町は27年度中の有料化を検討している方針を示した。

◇町の高齢者叙勲(旭日単光章)に、志津川北の又の吉田清さん(88)に贈られた。吉田さんは元町議会議員として町に尽力した。

◇南三陸町は新年度から始まる子ども・子育て支援制度に合せ「保育料の半額」を提示し議会です承された。

◆気仙沼副市長の大江真弘氏(40)が今月末で勇退する。大江氏は国土交通省出身で1期4年の1年を残し、国交省の意向に沿った。後任は引き続き国からの登用とする。

◇南三陸町の人事案で遠藤副町長の退任にあたり、最知明広氏(55)の選任を賛成多数で議会で可決した。

◇町職員の遺族の佐藤仁町長への「業務上過失致死」容疑で告訴が県警に送検されたが、立件は見送られる見通し。

◇志津川市街地の災害公営住宅の東工区東の第一号の工事が4月に着工する。南三陸町の志津川市街地の整備戸数の7割を占め、すべての団地は年内に着工する。公営住宅第1号は28年6月に完成入居を目指す。

◇三陸道「南三陸道路」(志津川小森～歌津日山間)7.2キロの4本すべてのトンネルが貫通し、28年度供用開始に前進する。小森ICは27年度の開通で計画は進んでいる。

◇南三陸佐藤仁町長は27年度の施政方針で、復興加速と人口減少対策を重点目標とした。

◆気仙沼市の人口は現在67,561人で6,686人が減少した。

◇気仙沼・南三陸町の管内の小中学校の新入生が9つの学校で1桁となった。気仙沼小は昨年の倍の入学生となるなど、人口減少の中で地域差が現れている。

◇気仙沼市本吉町の小野寺さん4年を経て帰宅東日本大震災で不明となっていた小野寺さん(当時73)が、今年1月25日地元の漁師が漁をしていて骨盤部分を発見した。県警のDNAデータが娘の松尾さんと鑑定結果から一致し、被災した場所から身元を特定した。そしてこの度、4年の歳月を経て家族に遺骨が引き渡された。

◆気仙沼本吉サーフィンクラブなどが主催し、8日小泉海岸で犠牲者の慰霊祭が営まれ、海に向い黙祷をささげた。地域住民をはじめ岩手・宮城のサーファー愛好家の60名が集まった。

11日南三陸町で4年目の追悼式
現在仮設住宅が町内・登米市に2,195戸あり、1,482世帯4,230人が生活している。みなし仮設は県内361世帯、県外58世帯で約1,200人となっている。現時点での大震災による死亡者は566人で不明者は213人となっている。

◆気仙沼市の災害公営住宅の高齢化率は36%に達し、今後は孤独死防止や自立支援強化を図っていく。

◇今秋開業予定の南三陸町の新病院に「透析部門」が再開する。町内には40人ほどの透析患者がおり、今後は周知を図っていく。透析の医師の招聘がならない現在、勤務医に研修をしてもらっての対応や、大学病院からの支援を受け治療にあたっていく。

◆気仙沼市は地方創生戦略として26年度補正予算に2億6千万円を盛り込んだ。先行実施として「2割増し商品券発行」や「子育て支援・介護人材確保」などを実施する。

◇第3回国連防災会議に先立ち、南三陸町を会場に公式イベントが10日と12日に開催された。10カ国から15人が来町し国内外からリーダーが集まり、女性の役割について復興への願いを込めた「わたしコミット」を世界に発信した。

◇町が出資を予定している第三セクター「まちづくり会社」を、商工会と一つの会社を立ち上げについて相談し、6月・7月をめどに設立する。町は180万円を出資し、株式会社を視野に志津川・伊里前市街地の商業施設建設を支援する。

◇仙台駅で「復興市」。オクトパス君が来客を迎え、6社が150品目の商品で南三陸町の魅力をアピールし、町への誘客を呼び掛けた。

◇14日午前7時頃BRTとダンプカーの接触事故が発生した。追い越しをかけたダンプカーが、BRTの運転席のバックミラーに接触した。乗客はいなかった。

◇神割崎キャンプ場の管理委託者の候補に、南三陸町観光協会の名があがる。

◆気仙沼市の本吉町野々下海岸の防潮堤9.8mの工事にあたり、国と県で構造が異なっていた事がわかった。林野庁と県が分かれて工事をしていったが、陸側が「直立」と「台形」と違っていた。今後修正をし工事を進める。縦割り工事の弊害があらわとなった。

◇ボランティアセンターの開所にあたり、「感謝の集い」がベイサイドアリーナを会場に開催され、全国から1,100名が集まった。町民有志が「ありがとう」「これからも」と感謝の炊き出しを振る舞った。

◇南三陸町ではウニの増殖に伴う磯焼け対策として、ウニ殻の再利用として土壌改良に肥料とする方針を明らかにした。

◆気仙沼市は2千億円の使い道として、産業再生と雇用創出に中核の新魚市場に168億円を充てる。その他造船・燃油施設の用地取得も図っていく。

◇伊里前市街地住宅地の買い取り可能筆は212筆で7万4,800㎡で、その内契約済み170筆で、残る2割が抵当権・相続などの問題で未買い取りとなっている。

◇歌津地区の伊里前の国道45号の3.9haの残った擁壁や基礎の撤去が始まり、商店街の復興へ始動となる。今年6月には完了する。事業予算は復興交付金メニューではなく、一部を町が負担する条件で今年1月「効果促進事業」として交付がみとめられた。予算は2億9,300万円となった。

◇南三陸町では緊急雇用の終了にあたり、9割の雇用が削減された。19日に開催された「離職者相談」には対象となった580人のうち、約260人が参加した。説明会には水産会社や介護関係6社のブースが設置され、求職の相談に対応していた。

◇戸倉小学校は間借りする志津川小体育館での最後の卒業にあたり、感謝の気持ちを伝え集まった(19日)。

◆気仙沼市菅原市長は市の震災遺構として「向洋高校保存」へと作業に入ることを明らかにした。

◇南三陸町戸倉地内の作業現場に設置していた、発電機の電線ケーブルが10数メートルずつ数本が盗まれた。工事終了後には、回収し施錠し保管を指導した。

◆気仙沼市は震災時の高齢者対策として、計画を議会に示した。要支援名簿に市民より同意を付けた660人の要支援名簿を自治会・消防などに年度内に配布することを明らかにした。

◇南三陸町で第1号の防集団地の集会所が完成した。藤浜団地の10区画の住宅再建のコミュニティの拠点となる。建設費は2,800万円(延べ床99.37㎡)で交付金が充てられる。来年度は新たに8カ所が建設される。

◇南三陸町の観光ツアーとして三陸道建設現場見学を盛り込んだ。国交省仙台河川国道事務所と大手旅行会社JTBが企画した。今回は首都圏から30名がツアーに参加した。

◇宮城県立志津川高校に気仙沼西高校教頭の山内松吾氏が校長として昇任した(南三陸町入谷出身)。前任の佐藤充幸校長は大河原商業に転任した。

◇地方創生戦略にあたり、地方創生室を設置し、人口減少や地方活性化策に取り組む。先行型交付金を8,350万円計上し、プレミアム商品券やU・Iターンの移住支援などを図り、2つの大きな問題への戦略を構える。

◇南三陸町・気仙沼市の在仙者で組織する「南三陸ふるさと連絡会」では、市に対してJR気仙沼線の鉄道の復活を要望した。

◇南三陸署は、三陸産箱入りワカメ3箱(時価2万4千円相当)を愛知県出身の容疑者が盗み、地元志津川の容疑者と、盗品売却運搬の容疑で男2人を逮捕した。

◇南三陸町は町立南三陸病院(仮称)の病室モデル施設を志津川沼田地区内に建設した。

◇東北電力の女川原発の事故を想定した避難計画で「30K圏外への登米市へ」。要配慮者への早期準備措置を講じることを、町独自の基本方針とし、児童などは保護者へ引き渡す事とした。

「南三陸町の宿泊施設(5施設)がスクラムを組み共同プランで減少している観光客誘客と情報発信をする。大手旅行代理店「じゃらん」が協力し、南三陸町「旬鮮おすばで乾杯プラン」と題して3月11日からスタートした。共同店は、南三陸ホテル観洋・ニュー泊崎荘・漁家民宿「やすらぎ」・民宿「下道荘」・「津の宮荘」の5施設。現在観光客は被災前のピークの116万人から8割程度まで回復したが、今後の被災地の風化も見込まれ、観光業の復活を図っていく。

◆気仙沼市港町から潮見町にかけての防潮堤計画は、海拔5mを予定しその説明会で、住民・事業所から「海が見えない」「船が見えない」と反対が相次いだ。

◆南三陸町は仮設入居の30%を下回る見込みの28年度から、平成の森など8カ所を本格「集約」の実施へ。

◇シルクフェスタが7日から入谷「ひころの里」で始まり、500点以上の作品が展示され来館者を楽しませた(開催8日間)。